

二位 イウナ 25歳 女性 大韓民国

タバコのせいで最も悲しかったあの日

ドーナツ屋の前を通ったら、今年の冬休みにあった悲しい思い出を思い出します。今年の冬休み、大阪のホテルでインターンシップに行ってきました。その時付き合っていた彼氏と仲が悪くなりました。彼氏に「今日が私たちの最後の話でもいいから、カフェで話したい」と言われてホテルの周りでどの店がいいか悩みました。やはり最後の話は、静かできれいな店で話したいと思いました。

韓国のドーナツ屋は静かで禁煙だから、日本も同じだと思ってドーナツ屋に入りました。

いすに座ってどのように話したらいいか悩みながら息を深く吸い込みました。その時です。けむたいタバコの煙がのどまでこもりました。ドーナツ屋で喫煙できるとは想像もしませんでした。タバコの煙のせいで咳をしながら、話し始めました。二、三名のタバコの煙はいつの間にかドーナツ屋の中にこもって黒雲になり、泣いている私の顔と彼氏の顔を塞いでしまいました。

彼氏はうそをついたことを認めながらこの後からうそもつかないと約束しました。そしてもっと私と話したいと言いました。しかし、私はたくさんのタバコの煙でのも目もいたくなって「出たい」しか思えなくなりました。もし、そのドーナツ屋でタバコの煙とにおいがなかったら彼氏と長く時間かけて誤解を解きながら話せたかもしれません。その日は彼氏と別れた経験より、一番悲しい思い出になりました。そのあとは日本のドーナツ屋をみるとタバコの煙のイメージが思い出されて足が向かなくなりました。

国のイメージは小さいところから始まります。イメージが悪くなったあとまた戻るのは難しいです。

だから2020年東京オリンピックの前に、外国のタバコ文化と綺麗な日本のイメージを作るためにタバコの法律を制定しなければいけません。喫煙の人のために店の中とか建物の近くに天井が詰まっている喫煙の施設が必要だと思います。禁煙の法律を作ること、それを国民が一緒に守るのは難しいけれど、今から準備したらできると思います。そして日本に来た外国人が綺麗な空気、タバコの煙とにおいがいい店と道でいい思い出が作れたらいいと思います。